

# 編集後記

▼生育過程の重要な転機の一つと考えられるのが小学一年生です。その現況を明らかにしようとしてつくられた研究所の研究班が中間報告としてまとめたのがこの特集です。

▼高橋氏は学級崩壊もありという最近の一年生を適確にとらえるには、彼等を支えている親たちの生活の枠組みのゆがみをきちんととらえることができます。目の前の子どもの中に親の生活が投影されていることを手掛かりに、親との共同の道を築いていく実践を報告しています。

▼立石氏が語る「地域に支えられた子育て・地域とつながりのうすい都市部でどのように共同の子育てを再構築してゆくのかが問われている」と思いました。各地で自分の子育てを赤裸々に語り合う集いをつくりたい。

▼「あの子みたいになりたい」とあこがれる仲間、「一緒に、がんばってやろうね」と支え合う仲間、「わたしみたいになってもらい」という仲間を異年齢集団のダイナミックな交流の中で育む丸山氏の優れた保育実践。

このような生活を経験させられずに小学校

にきてしまったという状況がおおくの子どもたちなのではないかと思いました。どうでしょう。

▼西親子劇場のお母さんたちが一年生をめぐっての話し合いをしました。まとめた横山さんがみなさんの気持ちをもとめて「もっと気楽に先生方とはなしたい!」。先生!ガードが堅すぎます。もっと自分の子育てでも語って!

▼成嶋氏から広島県の高校の校長の死を奇貨として利用し、「日の丸・君が代」の「法制化」を急ぐ動きを厳しく批判する貴重な論文をいただきました。日本軍国主義のアジア侵略という歴史を背負った「日の丸・君が代」のシンボルとしての問題性、教育現場の混乱をなくすためという「法制化」のねらい等々のこの論文を親と教師が各地で学び、深く討議をおこしてほしいと思いました。

▼八木氏は韓国における最近の「朝鮮戦争論」と「統一教育」を紹介しながら、先に日本の国会をととった新ガイドライン法(戦争法)の本質を鋭い角度で解析しています。

それは私の表面的な「朝鮮戦争」の理解をうちくたくもでした。朝鮮民衆にあたえたすさまじい惨禍に現代の戦争のおそろしさを感じました。またこの朝鮮戦争が今日、国連を無視しておこなうアメリカの「限定された地域戦争」の原型であったことを学びました。

(本田)

※おわび

▼先号(57)の「北から南から」白川実さんの「美酒追憶」に、当面↓当地、遡上とする↓湖上する、「亀の爺」↓「亀の翁」、醸造業↓醸造学などの誤植がありました。筆者および読者に深くお詫びいたします。(吉田)

## にいがたの教育情報 NO. 58

1999年6月30日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所

発行人 長崎 明

〒951-8116 新潟市東中通1-86 山崎ビル

電話・FAX (025) 228-2924

振替口座・00640-0-12332

印刷所・中央印刷さびす

本誌内容の無断転載を禁じます。